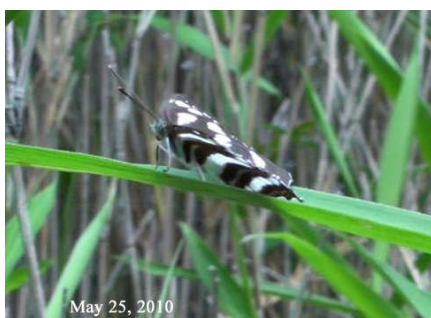
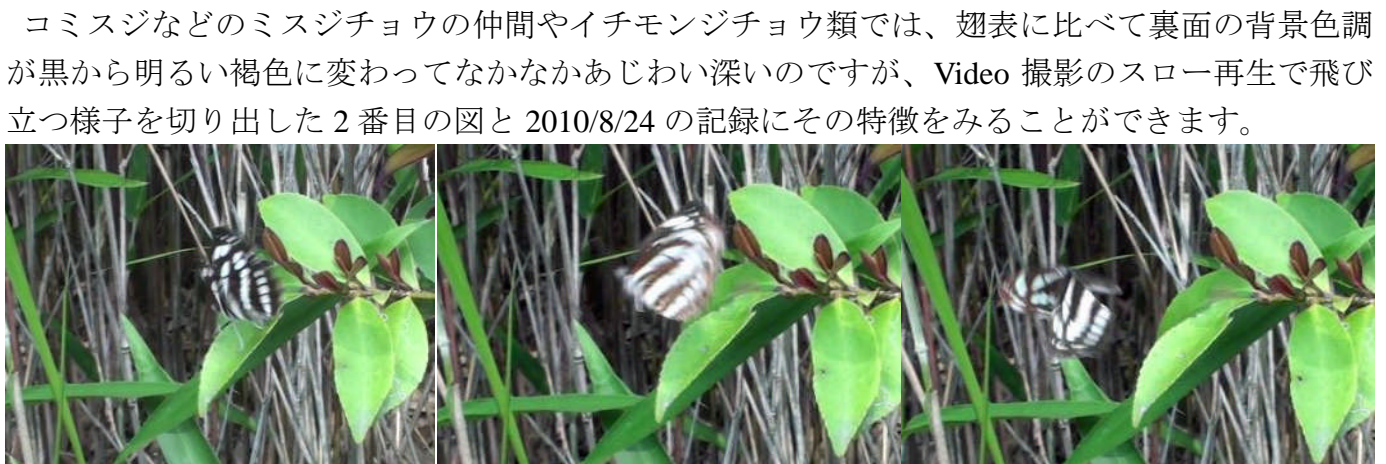


ホシミスジの項で少し触れたコムスジの生態写真をやっとな確保できたので、久々に身近なチョウについて書くことができます。飛び方にとっても分かりやすい特徴があって”ツンと羽ばたいてはグライダー様にスイーと流れるしぐさで軽やかに滑空し、その飛び方から遠くにいてもミスジチョウの仲間だと分かる”とホシミスジの項に記載しました。日本には学名 *Neptis* で分類される

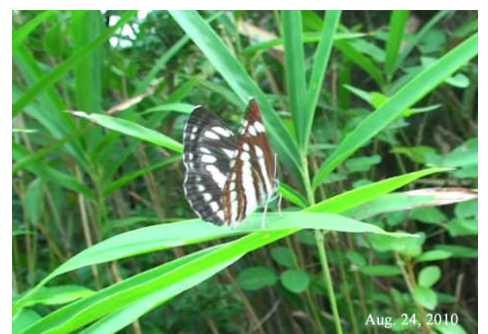


フタスジチョウを含むミスジチョウの仲間が5種類いて、コムスジは北海道から屋久島までもっとも広く分布する普通種です。コムスジの種名 *aceris* はカエデ類の属名 *Acer* に由来しますが、カエデで育つのはミスジチョウとオオミスジであってコムスジの幼虫はマメ科のニセアカシア、フジ、クズやナンテンハギなどのハギ類で育ち、カエデ類は食べないのに、命名者がよく調べなかったのか間違いを犯したようです。学名は一度登録されると簡単には訂正されないようで、大英博物館にコマドリが *Erithacus akahige*、アカヒゲが *Erithacus komadori* と取り違えて登録されていることが分かっていても博物館は決して訂正を認めないそうです。この2種の小鳥は日本の鳥シリーズ切手に採用されていますので、関心のある方は確認してみてください。

コムスジなどのミスジチョウの仲間やイチモンジチョウ類では、翅表に比べて裏面の背景色調が黒から明るい褐色に変わってなかなかあじわい深いのですが、Video 撮影のスロー再生で飛び立つ様子を切り出した2番目の図と2010/8/24の記録にその特徴をみるすることができます。



真横からカメラでねらえる位置にとまったところを **Low Angle** で迫った際の記録は風が強くていい映像となっていませんが、2010年8月24日、ようやくV字開翅姿勢をキャッチできました。ミスジチョウの仲間は、多くの場合静止する際には左上第一図のように三筋模様が目立つ形に目いっぱい羽を広げた



姿勢でとまり、静かに開閉を繰り返します。♀は羽の形が丸みを帯びて総じて♂よりも大型、♂は後翅表面の前縁部に光沢をもった灰白色のいくらか広い部分があり、これらの特徴を調べると、雌雄の区別は容易です。越冬した終令幼虫は何も食べずに蛹化するそうで、加古川周辺では4月の中旬から9月下旬までの成虫活動が記録できています。年2回以上は発生していると思われませんが、正確な発生回数は確認できていません。